

2019年2月20日

報道機関 各位

国立大学法人山梨大学 生命環境学部 地域社会システム学科
山梨中銀経営コンサルティング株式会社 経済調査部

「ゆるキャン△」が地域に与えた影響調査について

山梨大学および山梨中銀経営コンサルティングは、アニメ「ゆるキャン△」が地域に与えた影響について共同で調査を実施しましたので発表します。

1. 調査の概要

調査方法	山梨県を訪れた「ゆるキャン△」のファンへのアンケート調査やヒアリング、五条ヶ丘活性化推進協議会、山梨県、やまなし観光推進機構をはじめとする関係者へのヒアリング
調査期間	2018年10月～12月
調査背景	「ゆるキャン△」は山梨県を舞台に女子高校生たちがキャンプをしたり、日常生活を送ったりする様子をゆるやかに描いた人気作品である。同作品のテレビアニメ放映後、山梨県内の聖地（作品に登場するモデル地）を訪れるファンが急増している。「交通手段も十分ではないエリアに、なぜ多くのファンが集まって来るのか?」、「地域にはどのような影響を与えているのか?」といった疑問に対して、山梨大学と山梨中銀経営コンサルティングが共通の問題意識を持って調査に取り組んだ。なお、調査に際しては、来訪者数や消費額の増加といった経済的な面だけでなく、ファン、関係者、地元の人々の生の声を多く聞くことで非経済的な効果の把握にも努めた。
その他	本調査は、峡南地域（主に身延町）を中心に考察している。

2. 調査結果の要旨

2-1 「ゆるキャン△」における聖地巡礼の特徴

- (1) テーマがキャンプであり、「ゆるキャン△」を見るとキャンプという行動に導かれる。キャンプは滞在時間が長く、地域の魅力をより深く知ることができる。
- (2) 聖地が広域に点在しているため、聖地巡礼が宿泊につながりやすい。
- (3) 時代のニーズに合っている。非常に忙しく、日々時間に追われることの多い時代にあって、本作品は「ゆっくりと流れる時間を楽しむ」といったシーンが多く「癒し」、「安心」、「ほっとする」ものを提供している。

2-2 「ゆるキャン△」の聖地巡礼が活況となっている背景

- (1) 行政による旗振り役・調整役としての機能が発揮された。具体的には、山梨県観光部、やまなし観光推進機構、身延町役場等が、「ゆるキャン△」の放映を地域活性化につなげるため、直接・間接的に様々な取組みを行ってきた。
- (2) 地域の協力による受け皿づくりがなされた。具体的には「五条ヶ丘活性化推進協議会」、「みのべーしょん 288」等が、行政と連携して地域の受け皿づくりを進めた。
- (3) SNSの活用等によるファンの声を生かした取組みがなされた。地域の受け皿を作る際、Twitter等を通じたファンの反応やアドバイスが力となった。

2-3 「ゆるキャン△」放映後の経済的な効果

- (1) 各種イベント開催による来訪者の増加・消費が発生した。県内で開催された各種イベントの参加者は総勢 6,000 人以上、県内での消費総額は 8,000 万円超と推計される。また、11 月に開催された音楽祭イベントにおける参加者一人当たりの県内消費額（参加費含む）は、山梨県の平均観光消費額（2017 年）の約 2 倍であった。
- (2) 聖地巡礼によるモデル地を中心とした来訪者が増加した。モデル地周辺のキャンプ場で来場者数が増加しているほか、下部地区の本栖高校周辺、身延町内のスーパー、身延駅しょうにん通り商店街付近の来店者が増加した。エリア的には北海道から鹿児島まで日本全国からの来訪があるほか、台湾、マレーシア、アメリカ合衆国など海外からも来ている。

2-4 「ゆるキャン△」が地域に与えた影響

- (1) 地域の自信・誇りが向上した。地域の人々から「『ゆるキャン△』をきっかけに、以前に比べて自分の地元をより自信をもって発信できるようになった」との声が聞かれた。
- (2) 様々なものをつないだ。イベントを地域の手作りで進めたことにより連帯感が増したほか、旧町の人々、県外に出て行った人々、世代間、地域の若い人々など、「ゆるキャン△」が様々なものをつないだ。
- (3) 峡南地域の「ありのままの価値」が再認識された。ファンの人々の声を聞く中で、地元の人々には見慣れた風景が県外から訪れる人々にとって大きな魅力であることが分かった。「ゆるキャン△」というフィルターを通して地元を見つめ直した時、見慣れた地域の風景の見え方（見方）が変わった。

2-5 「ゆるキャン△」効果を継続させていくために必要なこと

- (1) 聖地「本栖高校」の有効活用。「ゆるキャン△」は聖地が点在しているがゆえに、本栖高校のようなハブ的な存在は重要であり、その活用方法が今後のカギを握る。
- (2) キャンプの活用。「見るとキャンプをしたくなる」という「ゆるキャン△」の特徴を生かし、キャンプを活用することにより滞在日数の長期化を図るとともにリピートにつなげていくことが求められる。
- (3) 山梨県内外の聖地等との連携。県内の各聖地が個別に取り組むだけでなく、共通のマップなどを保有し、互いに紹介できるようになれば効果的である。また、「ゆるキャン△」には県をまたいで聖地が登場する。各県が連携・協力し相乗効果を高めるべきである。山梨、静岡、長野の広域連携による取組みを検討していけば、ファンや地域にとってメリットが出てくると考えられる。

3. その他

本調査結果を踏まえたシンポジウムを 3 月 19 日（火）開催します。シンポジウムでは、本調査結果の詳細版レポートを配布するとともに、関係者による講演会、パネルディスカッションを予定しています。詳細は別紙をご覧ください。なお、本調査には山梨大学田中敦ゼミの学生が教育の一環として全面的に参加し、地域との交流も深めました。

本件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

山梨中銀経営コンサルティング株式会社 経済調査部 岡本・櫻林
電話 055-224-1032

国立大学法人山梨大学 生命環境学部 地域社会システム学科 田中（敦）
電話 055-220-8167

【調査結果(概要版)】

1. 「ゆるキャン△」※¹における聖地巡礼※²の特徴

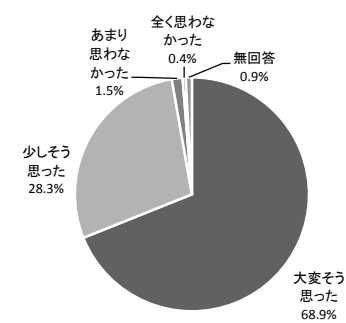
(1) テーマがキャンプである

- 2018年11月3日に開催されたイベント「秘密結社ブランケット音楽祭」における来場者アンケート※³によると、「ゆるキャン△」のファンの多くが本作品を見たことをきっかけにキャンプへの興味を示し、実際にキャンプを行っていることが分かる。

《「秘密結社ブランケット音楽祭」来場者アンケート結果(抜粋)》

本作品を見てキャンプをしたいと思いましたが

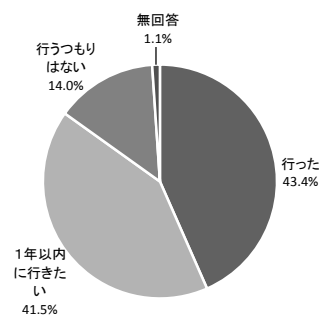
カテゴリー名	回答者数	%
大変そう思った	324	68.9%
少しそう思った	133	28.3%
あまりそう思わなかった	7	1.5%
全くそう思わなかった	2	0.4%
無回答	4	0.9%



回答者数:470

本作品を見て以降、実際にキャンプ(デイキャンプを含む)を行いましたか

カテゴリー名	回答者数	%
行った	204	43.4%
まだ行っていないが1年以内に行きたい	195	41.5%
行うつもりはない	66	14.0%
無回答	5	1.1%



回答者数:470

- 他のアニメ等の聖地巡礼で見られる行動（聖地に行き写真を撮ったり、グッズ等を購入したりすること）と実際にキャンプをすることの大きな違いは、滞在時間の長さである。
- 「ゆるキャン△」に出てくる本栖湖、四尾連湖、笛吹川フルーツ公園を始めとする各スポットは、同じ一日の中でも時間の経過とともにその姿を変えていくため、日中と夕方ではそれぞれ違った美しさを見せる。また、各スポットは季節によっても全く違った表情を見せる。実際にキャンプをしながら聖地に長時間滞在し、かつ、様々な季節に繰り返し訪れることで、その地域の魅力をより深く知ることができる。

(2) 聖地が広域に点在している

- 聖地が広域に点在していることにより、聖地を訪れるためには宿泊が絡む滞在となりやすい。関係者によれば、聖地巡礼者には作品に倣ってキャンプをする方がいるほか、キャンプをしなくても県内の宿泊施設に宿泊する方もみられるという。このように、「ゆるキャン△」の聖地巡礼は宿泊につながりやすい。

(3) 時代のニーズに合っている

- 今の時代は非常に忙しく、日々時間に追われることが多い。そのようななか、「ゆるキャン△」には「ゆるく、ゆっくりと流れる時間を楽しむ」、「忙しい日常から離れて何もしない時間を楽しむ」、「富士山など自然の美しさに感動する」といったシーンが散見されるため、ファンから「ゆるキャン△」を見ると「癒しを感じる」、「安心する」、「ほっとする」との声が聞かれた。このように、自然の中でゆるくキャンプを楽しむという作品のテーマが忙しい今の時代のニーズにマッチしており、再認識されるべき価値観といえる。
- 山梨県は首都圏から近いが、豊かな自然や日本の原風景的な景観が多数存在する。「ゆるキャン△」をきっかけにファンが山梨県を訪れ、上質な時間を過ごしてもらうことができれば、素晴らしいことである。山梨県には時代のニーズ、ファンのニーズに応えることのできる資源が多く存在するが、「ゆるキャン△」やファンが山梨県の良さを発掘し、また、山梨県民にも気づかせてくれたともいえる。

2. 「ゆるキャン△」の聖地巡礼が活況となっている背景

(1) 行政による旗振り役・調整役としての機能の発揮

- 山梨県観光部、やまなし観光推進機構、身延町役場等では、「ゆるキャン△」の放映を地域活性化につなげるため、直接・間接的に様々な取組みを行ってきた。具体的には、「富士の国やまなしフィルムコミッション」によるロケ支援や「ゆるキャン△」特設サイトの開設によるモデル地の紹介、聖地を中心に地域を巡るデジタルスタンプラリーやバスツアーの開催などを連携して実施している。
- アニメのコンテンツを用いる場合、制作委員会の許諾が必要となるが、山梨県観光部ややまなし観光推進機構が制作委員会との調整役として携わることで、アニメのコンテンツを地域のイベント開催やグッズ等の企画に有効に活用することができている。また、地域でイベント等を開催する場合、関係各所への申請や調整等を行う必要があるが、身延町役場が準備段階から積極的に関わっていることで、円滑にイベントを行うことができている。

(2) 地域の協力による受け皿づくり

- 山梨県観光部とやまなし観光推進機構では、「ゆるキャン△」の放映を地域活性化につなげるため、モデル地周辺の自治体や地域の団体・事業者等との協議を積極的に実施

してきた。

- 地域の有志が集まった「五条ヶ丘活性化推進協議会」や身延山門内を中心に地域活性化の取組みに注力している「みのべーしょん 288」等が、行政と連携して地域の受け皿づくりを進めたことが、「ゆるキャン△」の聖地巡礼の取組みが活況となっている大きな要因となっている。

(3) SNS の活用等によるファンの声を生かした取組み

- 関係者によれば、地域の受け皿を整備する上でファンの Twitter による反応が力となったという。また、ファン目線での様々なアドバイスもいただき、それを五条ヶ丘活性化推進協議会の取組みに生かしたという。
- また、地域の商店に新しいグッズを置いたことを Twitter で発信するとすぐにリアクションが現れるなど、ファンのリアクションが商店側のモチベーション向上につながっているという。

3. 「ゆるキャン△」放映後の経済的な効果

(1) 各種イベント開催による来訪者の増加・消費の発生

- テレビアニメ放映後、「ゆるキャン△」関連の複数のイベントが山梨県で開催されており、多くの参加者がモデル地及び周辺地域を訪れている。
- 山梨県内で開催された「ゆるキャン△」関連の主なイベントは以下のとおりである。

山梨県内で開催された「ゆるキャン△」関連の主なイベント

イベント名	開催日	概要	参加人数
ゆるくないスタンプラリー	2018年4月21日 ～6月3日	山梨県内のモデル地を巡る デジタルスタンプラリー	約 5,000 名
ゆるく楽しむスタンプ△ミッション	2018年8月31日 ～(継続中)	身延町内のモデル地等を巡る スタンプラリー(ミッション形式)	
聖地巡礼公式ツアー(ゆるくない スタンプラリー制覇ガチツアー)	2018年5月25日 ～5月26日	モデル地を巡る1泊2日の バスツアー	約 30 名
秘密結社ブランケット音楽祭	2018年11月3日	聖地である本栖高校グラウンドでの 音楽祭	約 600 名
グビ姉の利き酒会 第一回	2019年1月27日	アニメキャラクターの声優を招いた 利き酒&トークショー	約 600 名

- モデル地等を巡るスタンプラリー・スタンプミッションには約 5,000 名の方が参加しており、これらの参加者 1 人当たりの消費額を山梨県観光入込統計調査(2017年)による平均消費額とした場合、山梨県内での消費額は約 6,426 万円(A)になると推計した。
- 上記イベントのうち、「ゆるくないスタンプラリー制覇ガチツアー」および「秘密結社

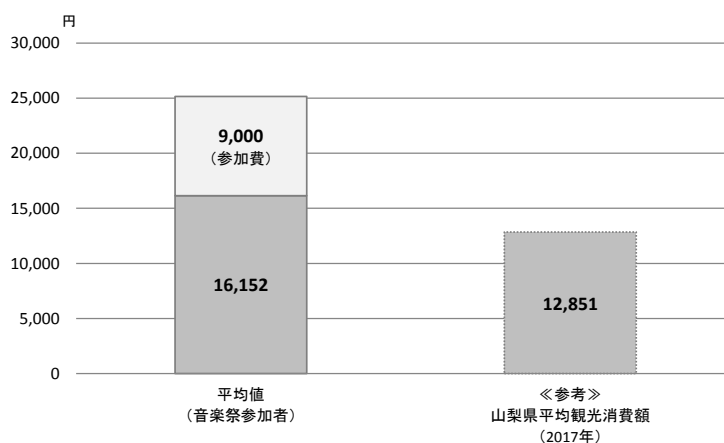
ブランケット音楽祭」では参加者を対象としたアンケート調査を実施しており、アンケート結果から各イベント開催による山梨県内での消費額はそれぞれ約 137 万円 (B)、約 1,509 万円 (C) になると推計した。なお、利き酒イベントではアンケート調査を実施していないため、参加者の消費額はチケット代のみの約 510 万円 (D) と推計した。

- 山梨県内で開催された「ゆるキャン△」関連の主なイベント開催による県内での消費総額は約 8,582 万円 [(A)+(B)+(C)+(D)] になると推計される。
- なお、11 月に開催された音楽祭イベントの参加者による県内消費額 (1 人当たり・参加費含む) は、山梨県の平均観光消費額 (2017 年) の約 2 倍であった。

《「秘密結社ブランケット音楽祭」来場者アンケート結果(抜粋)》

今回のイベント参加にあたって、山梨県内でお使いになったおおよその金額(これからお使いになるご予定の金額を含む)を教えてください(※参加費を除く)

	平均値(全体)	平均値(県内在住者)	平均値(県外在住者)
交通費	4,491円	1,279円	5,307円
宿泊費	1,654円	133円	2,051円
飲食費	2,733円	1,889円	2,983円
買い物代	6,934円	6,382円	7,235円
入場料	305円	32円	380円
その他	35円	0円	45円
合計	16,152円	9,715円	18,001円



(2) 聖地巡礼によるモデル地を中心とした来訪者の増加

- アニメに登場したモデル地を中心に地域の事業者等を対象としたヒアリングを実施したところ、様々な施設から『ゆるキャン△』をきっかけに来訪者が増加しているとの声が聞かれた。モデル地周辺のキャンプ場で来場者数が増加しているほか、下部地区の本栖高校周辺、身延町内のスーパー、身延駅しょうにん通り商店街付近の来店者

が増加するなど、身延町内の各所で来訪者が増加している。

- 聖地を巡る来訪者には日帰りで帰る方も多いが、キャンプをテーマにしたアニメであるため、実際に県内でキャンプを行う方もいるほか、聖地が広域に点在しているため、遠方からの来訪者が県内の宿泊施設に泊まるなどの効果がみられた。また、アニメに登場した山梨の名物（ほうとう、みのぶまんじゅうなど）がファンの間で人気となっているほか、地域の西嶋和紙等とコラボした地域限定のグッズを購入する方もいるなど、「ゆるキャン△」をきっかけに地域の特産品が以前より注目されるようになった。
- 本栖高校の近くにある常幸院では、交流ノートと呼ばれる来訪者が自由に記述できるノートを設置しており、ファン同士の交流を手助けする取組みを行っている。交流ノートには、北海道から鹿児島まで全国各地から来訪者が来ていることがわかるほか、台湾、マレーシア、アメリカ合衆国など、海外から訪れた方の書き込みもみられ、「ゆるキャン△」の放映をきっかけにファンの方が国内、国外問わず遠方から聖地を訪れていることが確認できる。

4. 「ゆるキャン△」が地域に与えた影響

(1) 地域の自信・誇りが向上した

- 地域の人々からは「『ゆるキャン△』をきっかけに、以前に比べて自分の地元をより自信をもって発信できるようになった」との声が聞かれた。また、山梨県出身で現在は県外に居住している人も「話題になっている『ゆるキャン△』の聖地は自分の地元だ」と自信持って話すことができるようになったという。
- 山梨大学の学生が地域の人々を対象に実施したアンケートによると、「ゆるキャン△」が地域のイメージアップにつながっていると思うかとの問いに対して、「そう思う」が68%、「ややそう思う」が30%で合計すると98%となる。また、地域への愛着については、「とても増加した」が39%、「やや増加した」が44%で合計すると83%となる。
- これらのことから「ゆるキャン△」が地元に対する評価を高めていることが分かり、それが、地域の人々の心に自信と誇りをもたらしているといえる。

(2) 様々なものをつないだ

① 地域の連帯感が増した

- 「ゆるキャン△」は、地域に様々な「つながり」をもたらした。一言でいえば、「ゆるキャン△」により、地域の連帯感が増したといえる。
- 関係者によれば、11月3日の音楽祭について、最初は協力者が数名しかいなかった。しかし、徐々に若手・中堅の人々が協力してくれるようになり、参加者も増えていき、手作りでイベントの準備が進められていった。このようなプロセスを通じて、地域の連帯感が増していった。
- 音楽祭イベントの参加者からは「とても楽しかったです。地元の人と一緒に手作りさ

れた感じがとても暖かかった！会場に向かう途中で地元の方に『楽しんでね。遠くからよく来たね』と声をかけていただいたこともとてもうれしかったです」、「スタッフの対応がすごくよかった。地域をあげてイベントを盛り上げてくれているのがよく伝わってきて温かい気持ちになった」等の感想が聞かれた。また、参加者の Twitter コメントでも“地元の人々による手作り感のあるイベントであること”を評価する声が散見された。

- このように、「ゆるキャン△」をきっかけに地域の連帯感が増し、それをファンが感じ、そのファンの意見が地域にフィードバックされ、さらに地域の連帯感が増し、ファンに対するもてなしの心が醸成されていくという好循環が生まれつつある。

②旧町の人々をつないだ

- 関係者によれば、これまで身延、下部、中富の旧町の人々が一つにまとまることは難しかった。しかし、今回、「ゆるキャン△」をきっかけに、これまで何となく存在していた「旧町意識のカベ」が取り払われた。「ゆるキャン△」が旧町の人々の心をつないだといえる。

③県外に出ていった人をつないだ

- 町外に出ていった人が、今回の「ゆるキャン△」をきっかけに、地元を気にかけてくれて、応援してくれるようになった。
- 「ゆるキャン△」放映後、県外に出ていった孫から「私の母校がテレビに出た」と電話が掛かってきたとの話がある。「ゆるキャン△」は地元を離れた人々の気持ちをもつなげたといえる。
- 下部中学校の卒業生からも喜びの声が多数聞かれている。ある卒業生は「母校が廃校となりさみしい思いをしていたところ、県外で「ゆるキャン△」を見た。懐かしい風景や自分の母校がアニメに登場しており、見入ってしまった。とても嬉しい気持ちでいっぱいである」と話している。

④世代間をつないだ

- イベント準備の際、五条ヶ丘活性化推進協議会では、様々な年代のスタッフが知恵を出し合いながら、協力している様子が見られた。また、今回は山梨大学など地元大学の学生も協議会に参加していた。学生にとっては地域の人々と交流する良い経験となり、地元の人々にとっては学生ならではのアイデアを得ることができたほか、協議会に活気がもたらされるという Win-Win の関係がみられた。「ゆるキャン△」が世代間をつないだといえる。
- 「ゆるキャン△」の放映をきっかけに、家族でキャンプをしたとの話がある。「ゆるキャン△」は家族全員で楽しむことができる内容であることも、世代間をつなぐうえで効果的な作品といえる。

⑤地域の若い人々をつないだ

- 関係者によれば、地域の若い人々の交流はそれほど活発ではなかった。しかし、「ゆるキャン△」をきっかけに、明らかに若い人々の間に連帯感が生まれたという。
- 地域の将来を担う若い人々が交流を保ち、一つになっていくことは、非常に重要なことである。「ゆるキャン△」をきっかけに、若い人々の連帯感がさらに増し、地域が活性化していくことが期待される。

(3) 峡南地域の「ありのままの価値」が再認識された

- アンケートやヒアリングによると、「ゆるキャン△」ファンが感じている山梨の良さは「素朴」、「シンプル」、「ほっとする」、「癒し」などと考えられる（これらのキーワードは同アニメの魅力でもある）。地元の人々には見慣れた風景でも、県外、特に首都圏に住む人にとっては、それらは大きな魅力である可能性がある。
- 峡南地方はそのような魅力が強い。音楽祭のアンケートでは「音楽と後ろの風景、流れる雲と音楽、とてもマッチしていました」「自然（環境）と音楽がとてもマッチしていてすごくよかったです。心がほっこりしました。明日から頑張れそうです」といった意見が散見された。ファンのこのような声を地元の人々が聞くことにより、地元の価値を再認識することになる。「ゆるキャン△」というフィルターを通して地元を見つめなおす時、見慣れた地元の風景の見え方（見方）が変わってくる。
- 何も飾ることのないありのままの峡南地域の風景の価値を、「ゆるキャン△」およびファンが気づかせてくれたといえる。

5. 「ゆるキャン△」効果を継続させていくために必要なこと

(1) 聖地「本栖高校」の有効活用

- 「ゆるキャン△」は聖地が点在しているがゆえに、本栖高校のようなハブ的な存在は重要である。その本栖高校の活用方法が今後のカギを握る。
- 関係者からは「本栖高校をキャンプ場にして、そこを拠点として、ファンが県内の様々な場所を巡るようになればよい。聖地がコンパクトにまとまっている場合はそのようなことができないが、『ゆるキャン△』は聖地が点在しているので、本栖高校を拠点に県内の様々な場所を巡るといった発想が出てくる」とのアイデアも出されている。拠点である本栖高校の活用方法について、今後、十分に検討していく必要がある

(2) キャンプの活用

- よく「アニメの効果はすぐに終わってしまう」と言われる。「ゆるキャン△」の場合、それを防ぐカギを握るのが「キャンプの活用」であろう。
- 例えば 1泊目はキャンプ場、翌日は本栖高校でキャンプをするなどキャンプを活用することにより滞在日数の長期化を図るとともにリピートにつなげていくことが求められる。

(3)山梨県内外の聖地等との連携

- 「ゆるキャン△」のファンの受け皿づくり等の取組みは、現状、山梨県内の一部の地域にとどまっている。しかし、今後は聖地を中心に県内全域に広がっていくことが期待される。県内の各聖地が個別に取り組むだけでなく、共通のマップなどを保有し、互いに紹介できるようになれば効果的である。
- 「ゆるキャン△」には県をまたいで聖地が登場する。各県でファンを奪い合っても仕方ない。むしろ、各県が連携・協力し相乗効果を高めるべきである。山梨、静岡、長野の広域連携による取組みを検討していけば、ファンや地域にとってメリットが出てくると考えられる。

※1 「ゆるキャン△」

主に山梨県を舞台に女子高校生たちがキャンプをしたり日常生活を送る様子をゆるやかに描く人気作品。原作者はあfろ氏で、芳文社の「まんがタイムきららフォワード」にて2015年5月から連載開始。単行本としては、まんがタイムKRコミックスフォワードシリーズで現在7巻まで発刊されている。テレビアニメは2018年1月から3月にかけてTOKYO MXほかにて第1期が放送された。また、同年7月から9月にかけて山梨放送にて再放送された。現在、続編制作が発表されており、ショートアニメ「へやキャン△」、テレビアニメ第2期「ゆるキャン△」のほか映画「ゆるキャン△」が公開予定となっている。

※2 聖地巡礼

アニメファンが作品に登場するモデル地(聖地)を巡ること。第1期のアニメに登場する聖地は以下の通りである。

本栖湖、JR身延線内船駅、身延橋、南部橋、旧下部小学校・中学校跡、ふもとつばら(静岡県)、セルバ身延店、河内屋身延店(跡地)、道の駅朝霧高原(静岡県)、JR山梨市駅、根津橋、笛吹川フルーツ公園、ほったらかし温泉、霧ヶ峰高原(長野県)、パインウッドキャンプ場、高ボッチ高原(長野県)、四尾連湖、JR甲斐常葉駅、JR身延駅、身延駅前しょうにん通り、夜叉神峠、杖突峠(長野県)、光前寺(長野県)、こまくさの湯(長野県)、陣馬形山キャンプ場(長野県)、富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ(静岡県)、まかいの牧場(静岡県)

※3 来場者アンケート

2018年11月3日(土)に開催された「『ゆるキャン△』秘密結社ブランケット音楽祭」の参加申込者約600名を対象に実施(回収数470通)。

※4 本栖高校

「ゆるキャン△」に登場する女子高生が通う高校。モデルは2017年に閉校となった旧下部小学校・中学校。

産学官連携 山梨観光シンポジウム

「ゆるキャン△」効果～地元が舞台となるアニメが地域に与える影響～

「ゆるキャン△」は山梨県を舞台に女子高校生たちがキャンプをしたり、日常生活を送る様子をゆるやかに描いた人気アニメーションです。2018年1月のTV放映開始後から本栖湖、四尾連湖、ほったらかし温泉等のロケ地にアニメを見たファンが訪れて来るようになりました。さらに11月3日には主人公たちが通う「本栖高校」のモデルである身延町の旧下部小学校・中学校で「音楽祭」を実施。9000円という入場料にもかかわらず全国から600名以上のファンが集まり、身延のありのままの自然の中での野外音楽祭が成功裡に行われました。

交通手段も十分ではないエリアに、なぜ多くのファンが集まって来るのか？こうした動きを地元ではどのように受け止め、どのような議論やプロセスを経て短期間の準備を進めてきたのか？また、こうしてアニメの舞台となりファンとの交流が進むことで、地域にはどのような影響を及ぼしているのか？

本シンポジウムでは、とかく経済的な面ばかりに目が行ってしまいがちな「地域に与える影響」について、さまざまな調査データや多くの関係者へのインタビューをもとにまとめた「非経済的效果」についての分析をベースに、実際にプロジェクトを推進した方々のお話を聞きながら、今後、行政、地域、産業、教育などさまざまな立場から、地域に好影響を与え、根付かせるコンテンツツーリズムの仕組みづくりを一緒に考えていきます。

【シンポジウムの概要】

- 主 催：山梨大学 山梨中銀経営コンサルティング株式会社
- 後 援：山梨県 (公社)やまなし観光推進機構
- 実施日：3月19日(火) 13:30～17:00 (開場 13:00)
- 会 場：山梨大学大村智記念学術館 (定員 100名) ※山梨大学甲府西キャンパス
- 対象者：行政関係者、各地域での観光・地域振興関係者、観光関連事業者、金融機関、教育機関等
(入場は無料ですが、事前の申込みが必要です)

【プログラム (敬称略)】

- | | | | |
|--------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 13:30～ | 開会挨拶 | | |
| 13:45～ | 基調講演 | 「ゆるキャン△」ムーブメントとその舞台裏
やまなし観光推進機構 マネージャー (富士の国やまなしFC 担当) 武川清志朗 | |
| 14:40～ | 報告① | 「ゆるキャン△」が地域に与えた影響 ～さまざまな視点からの調査報告～
山梨中銀経営コンサルティング株式会社 経済調査部長 岡本新一 | |
| | | ***休憩*** | |
| 15:20～ | 報告② | PBLを通じた大学生への教育効果 ～地域・産学官連携と大学の役割～
山梨大学生命環境学部地域社会システム学科 教授 田中 敦
——観光政策科学特別コースの紹介と参加した学生からの発表—— | |
| 16:00～ | パネルディスカッション | 「ゆるキャン△」が地域にもたらしたもの ～地域・現場からのレポート～ | |
| | パネラー | 山梨県観光部観光プロモーション課 課長補佐 矢野 久
五条ヶ丘活性化推進協議会 会長(常幸院) 深山 光信
みのべーしょん 288 代表 (武州屋) 佐野 信 | |
| | コーディネーター | 山梨中銀経営コンサルティング株式会社 岡本 新一 | |

